

# 「轟きは夢をのせて —喜・怒・哀・楽の宇宙日記」

的川泰宣著 共立出版

総366頁 ISBN 4-320-00566-X 定価 本体1,900円+税

倉本 圭<sup>1</sup>

大学院生のころ、たまの雑談の機会に恩師を含め諸先生方から伺った四方山話はとても面白かった。書物でしか存じ上げない大先生のちょっとした奇行(と言うとやや大げさか)や放胆さ、先生方が若かったころの研究室のエピソード、今は成熟した分野の揺籃期の熱気、昨今話題の出来事の裏話、科学者としてのポリシーなど、「へえ、そうだったのか」「そんな考え方があるんだ」と思わず身を乗り出して聞きいったものだ。

こんな「師との雑談」的な面白さを味わうことができるのが本書である。日本の宇宙開発にその初期から携わり、宇宙研あるいはJAXAの顔として八面六臂の活躍をされている著名な宇宙工学者の手によるこの読み物は、若手や宇宙科学に興味を持つ一般市民へ向けて20世紀最後の年から昨年までほぼ1～2週間おきに記したメッセージを日記風に1冊に綴じたものである。前書きによれば、日本惑星協会が発行していたメールマガジンが元になっているとのこと。超多忙なはずの著者の根気に驚いた。

本書のタイトルは内容をうまく表しており、宇宙科学にまつわる喜怒哀楽と夢が普段着の言葉で語られている。宇宙に惹かれる子供や若手の輝きに接した時の喜び、無神経な報道や政策への怒り、大切な人や探査機を失ったときの哀しみ、携わった者しか味わえない打ち上げや実験成功の喜び、そして10年後20年後の将来へ向けた宇宙科学の夢、これらの多彩なトピックが、時に身を削るユーモア(ダイエットの話他)も交えつつ展開される。辛いトピックでもその記述にさりげない気配りがあって、私は著者と面識はないのだが、きっと人間好きな方なのだなあと感じた。

この本は300頁超と結構厚く、最近まとまった時間がなかなか取れなかった私は、本書を入手しながらも、それを実際に開くことに初め少しためらいを覚えた。ところがいざ読み始めると文章に引き込まれ、カレンダーに従ってその時々出来事を思い出し、そして追体験しながら、案外短時間で読了することができた。写真やユーモラスな挿絵などのレイアウトも読みやすさに貢献しているようだ。うまく拾い読みすれば、最近の国内外の惑星探査ミッションの当事者の視点から見た記録、宇宙開発にかけた人々の伝記などとしても味わうことができるだろう。とはいえ、この本は一頁目から時系列に従って著者とその時々刻々を共有しながら読み進めるのがおそらく一番面白い。値段も手ごろであり宇宙科学に興味を持つ人々に広くお奨めしたい。

1. 北海道大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻